

県内の主要産業である、輸送用機械器具製造業及び食料品製造業について、平成12年度からの景況感D I、売上げD I、設備投資実施率の推移をみている。

景況感の推移

輸送用機械器具の景況感D Iの過去10年間の平均値は42.4であり、製造業全体の平均値(62.1)を20ポイントほど上回っている。H17年10-12月期からH18年7-9月期までの4四半期はプラスの水準で推移しており、最高値はH18年4-6月期の+12.2だった。

輸送用機械器具は、景況感D Iの変化幅が大きいという特徴がある。リーマンショックの前後(H20年7-9月期 H21年1-3月期)では、49.0から98.5へ49.5ポイント下落した。また、直近のH22年4-6月期は、前期より41.3ポイントと過去最大の上昇幅を記録している。

食料品は、景況感D Iの変化幅が小さいという特徴がある。リーマンショックの前後でも65.4から74.6へと9.2ポイントの下落に留まった。

食料品は製造業全体と景況感D Iの動きが異なるという特徴もある。最高値を記録したH19年1-3月期は製造業全体のD Iが下降局面に入ってからであるし、最低値を記録したのもH21年10-12月期と製造業全体が最低値を記録したH21年1-3月期とはタイムラグがある。

売上げの推移

売上げD Iの推移をみると、製造業全体、輸送用機械器具及び食料品のいずれもが、H21年1-3月期に最低の数値を記録している。リーマンショック以降の売上げの減少が大きかったことがわかる。

輸送用機械器具の売上げD Iは、リーマンショックの前後で急落・急上昇している。H20年7-9月期からH21年1-3月期までの2四半期で86.3ポイント下落したが、H21年1-3月期からH21年10-12月期までの3四半期では109.4ポイント上昇している。

食料品の売上げD Iは、四半期ごとの特徴が顕著である。毎年4-6月期及び10-12月期は前期比でプラスとなり、1-3月期及び7-9月期は前期比でマイナスとなっている。さらに、四半期ごとの変化幅が大きく、グラフがジグザグになるという特徴もある。

設備投資実施率の推移

設備投資実施率の推移をみると、製造業全体及び輸送用機械器具はリーマンショック以降に実施率が低調だったが、食料品は実施率30%以上を維持し、H21年7-9月期に最高値を記録するなど、特徴的な動きをしている。

参考 平成20年工業統計 製造品出荷額第1位：輸送用機械器具製造業
従業員数第1位：食料品製造業

1 景況感DIの推移

製造業全体の過去10年間の平均値は62.1であり、最も高かったのは、H18年1-3月期の29.3、最も低かったのはH21年1-3月期の92.5だった。その差は63.2ポイントである。

リーマンショックの前後（H20年7-9月期 H21年1-3月期）のDIの変化をみると、73.3から92.5へと19.2ポイント下落している。

輸送用機械器具の平均値は42.4であり、最も高かったのは、H18年4-6月期の+12.2、最も低かったのはH21年1-3月期の98.5だった。その差は110.7ポイントである。

H17年10-12月期からH18年7-9月期までの4四半期間をプラスの水準で推移しており、過去10年間の平均値は製造業全体を20ポイントほど上回っている。

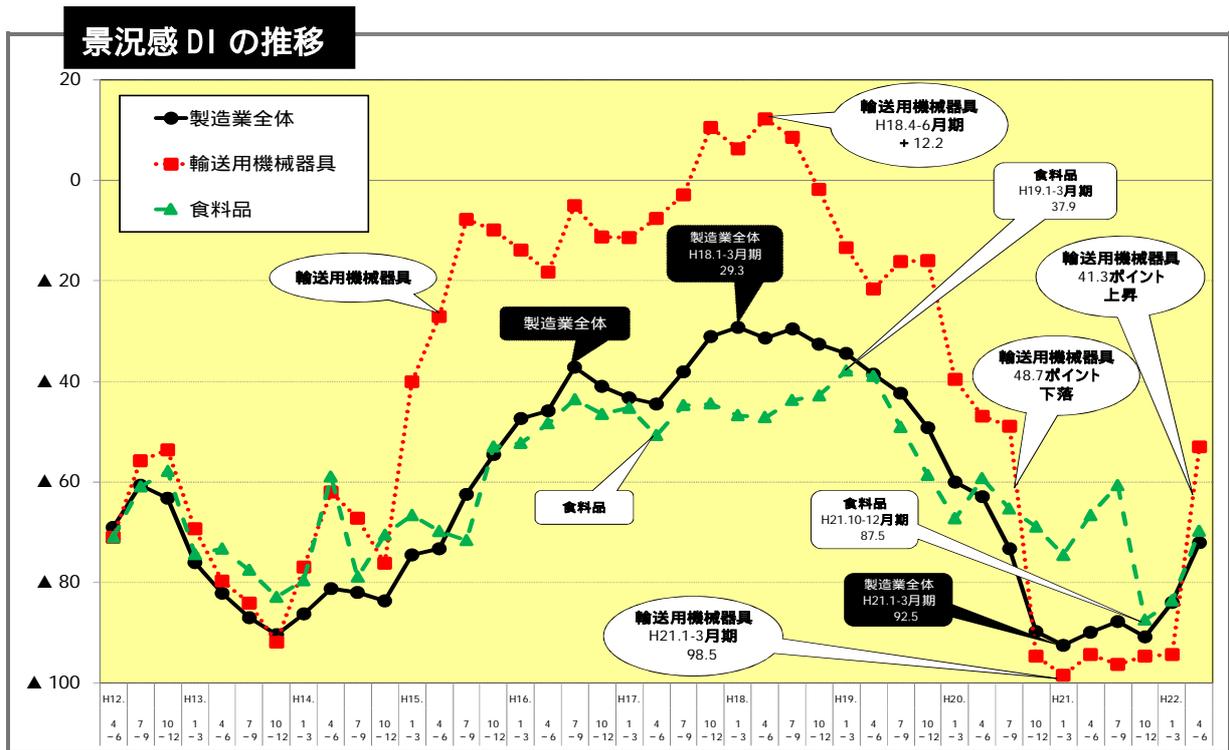
輸送用機械器具はDIの変化幅が大きいことが特徴である。リーマンショックの前後のDIの変化をみると、49.0から98.5へ49.5ポイント下落した。

H15年1-3月期は前期比36.2ポイント上昇しており、直近のH22年4-6月期は前期比41.3ポイントと過去最大の上昇幅であった。

食料品の平均値は60.8であり、最も高かったのは、H19年1-3月期の37.9、最も低かったのはH21年10-12月期の87.5だった。その差は49.6ポイントである。

食料品はDIの変化幅が小さいことが特徴である。リーマンショックの前後でも、65.4から74.6へと9.2ポイントの下落に留まった。

また、食料品は製造業全体とDIの動きが異なることに特徴がある。最高値を記録したH19年1-3月期は製造業全体のDIが下降局面に入ってからであるし、最低値を記録したのもH21年10-12月期と製造業全体とはタイムラグがある。



	H12			H13			H14			H15			H16			H17						
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	平均値
製造業全体	▲69.1	▲60.6	▲63.3	▲76.0	▲82.2	▲87.0	▲90.4	▲86.3	▲81.3	▲82.0	▲83.6	▲74.6	▲73.3	▲62.5	▲54.6	▲47.5	▲45.9	▲37.2	▲41.0	▲43.3		
輸送用機械器具	▲71.1	▲55.8	▲53.7	▲69.4	▲79.7	▲84.2	▲91.9	▲76.9	▲62.1	▲67.2	▲76.2	▲40.0	▲27.1	▲7.7	▲9.8	▲13.8	▲18.3	▲4.9	▲11.3	▲11.4		
食料品	▲71.1	▲61.0	▲57.9	▲74.5	▲73.3	▲77.6	▲83.0	▲79.6	▲59.0	▲78.9	▲70.6	▲66.7	▲69.8	▲71.7	▲53.0	▲52.3	▲48.4	▲43.6	▲46.6	▲45.3		
	H17			H18			H19			H20			H21			H22						
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	平均値
製造業全体	▲44.5	▲38.0	▲31.1	▲29.3	▲31.4	▲29.5	▲32.6	▲34.4	▲38.6	▲42.3	▲49.2	▲60.1	▲63.0	▲73.3	▲89.8	▲92.5	▲90.0	▲87.8	▲90.8	▲84.0	▲72.1	▲62.1
輸送用機械器具	▲7.6	▲2.9	10.5	6.3	12.2	8.6	▲1.8	▲13.3	▲21.7	▲16.1	▲16.0	▲39.6	▲46.9	▲49.0	▲97.7	▲98.5	▲94.4	▲96.4	▲94.6	▲94.4	▲53.1	▲42.4
食料品	▲50.7	▲44.8	▲44.4	▲46.8	▲47.2	▲43.8	▲42.9	▲37.9	▲39.0	▲49.1	▲58.7	▲67.3	▲59.3	▲65.4	▲69.0	▲74.6	▲66.7	▲60.7	▲87.5	▲83.6	▲69.8	▲60.8

2 売上げDIの推移

製造業全体の過去10年間の平均値は21.5であり、最も高かったのはH17年10-12月期の+12.3だった。プラスの水準はこのときを含めて5回記録している。最も低かったのは、H21年1-3月期の76.6だった。H19年1-3月期以降、14四半期連続でマイナスの水準となっている。当調査では季節調整を行っていないため、毎年10-12月期は前期に比べてDIは改善するが、唯一の例外はリーマンショック直後のH20年10-12月期だった。このときは前期比で11.3ポイント下落している。

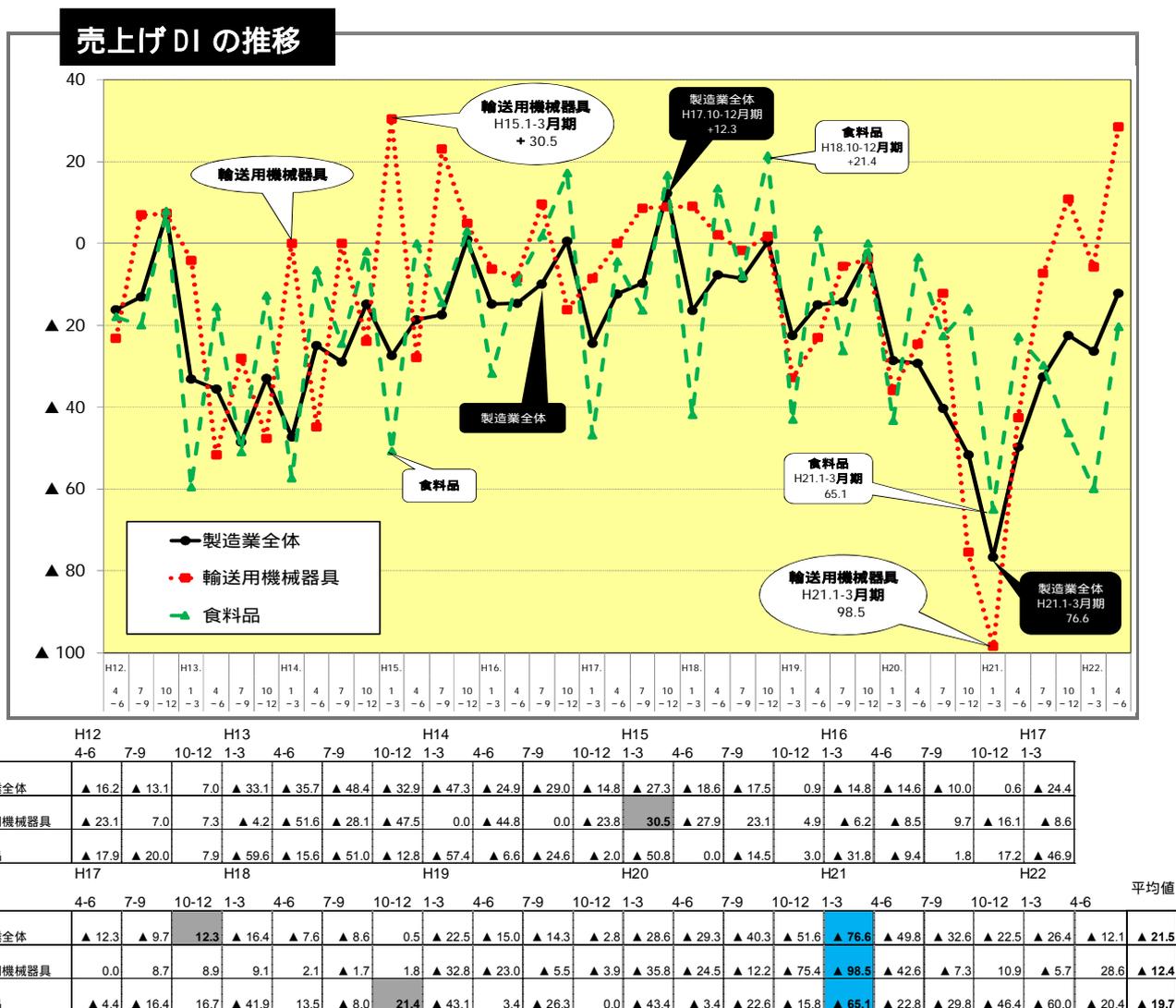
輸送用機械器具の平均値は12.4であり、最も高かったのはH15年1-3月期の+30.5だった。プラスの水準はこのときを含めて13回記録している。直近のH22年4-6月期は+28.6であり、過去2番目に高い値となっている。最も低かったのは、H21年1-3月期の98.5だった。

リーマンショックの前後をみると、H20年7-9月期からH21年1-3月期までの2四半期で86.3ポイント急落したが、H21年1-3月期からH22年10-12月期までの3四半期で109.4ポイント上昇している。

食料品の平均値は19.7であり、最も高かったのはH18年10-12月期の+21.4だった。プラスの水準はこのときを含めて7回記録している。最も低かったのは、H21年1-3月期の65.1だった。

食料品は四半期ごとの特徴が顕著であり、毎年4-6月期及び10-12月期が前期比でプラスとなり、1-3月期及び7-9月期は前期比でマイナスとなっている。さらに、四半期ごとの変化幅が大きく、グラフがジグザグになることも特徴として挙げられる。

製造業全体、輸送用機械器具及び食料品のいずれもが、H21年1-3月期に最低の数値を記録しており、リーマンショック以降の売上げの減少が大きかったことが読み取れる。



3 設備投資実施率の推移

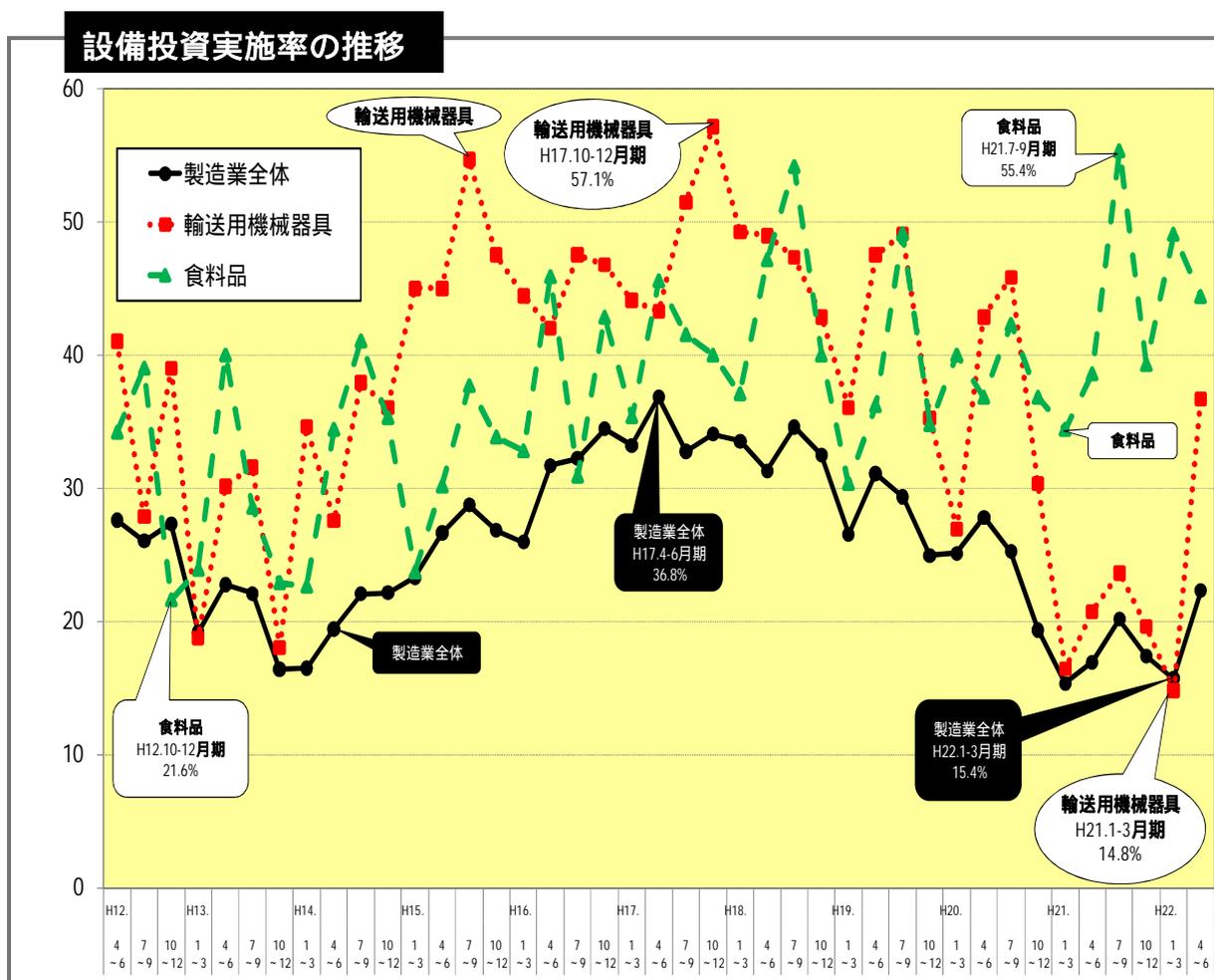
製造業全体が最も高かったのは、H17年4-6月期の36.8%であり、最も低かったのはH21年1-3月期の15.4%だった。過去10年間の平均値は25.8%となっている。

輸送用機械器具が最も高かったのは、H17年10-12月期の57.1%だった。実施率50%超は、H15年7-9月期(54.7%)、H17年7-9月期(51.5%)を含めて3回記録している。

最も低かったのはH22年1-3月期の14.8%だった。平均値は37.7%となっている。

食料品が最も高かったのは、H21年7-9月期の55.4%であり、最も低かったのはH12年10-12月期の21.6%だった。平均値は37.3%となっている。

製造業全体及び輸送用機械器具はリーマンショック以降に実施率が低調だったが、食料品は実施率30%以上を維持し、最高値も記録するなど、特徴的な動きをしていることがわかる。



	H12			H13			H14			H15			H16			H17						
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6					
製造業全体	27.6	26.0	27.4	19.2	22.8	22.1	16.4	16.5	19.4	22.1	22.1	23.3	26.7	28.7	26.8	26.0	31.7	32.2	34.5	33.2		
輸送用機械器具	41.0	27.9	39.0	18.8	30.2	31.6	18.0	34.6	27.6	37.9	36.1	45.0	45.0	54.7	47.5	44.4	42.0	47.5	46.8	44.1		
食料品	34.2	39.0	21.6	23.9	40.0	28.6	22.9	22.6	34.4	41.1	35.3	23.7	30.2	37.7	33.8	32.8	45.9	30.9	42.9	35.4		
	H17			H18			H19			H20			H21			H22			平均値			
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6					
製造業全体	36.8	32.8	34.1	33.5	31.3	34.6	32.5	26.6	31.1	29.4	25.0	25.1	27.8	25.2	19.3	15.4	16.9	20.2	17.4	15.7	22.3	25.8
輸送用機械器具	43.3	51.5	57.1	49.2	49.0	47.4	42.9	36.1	47.5	49.1	35.3	26.9	42.9	45.8	30.4	16.4	20.8	23.6	19.6	14.8	36.7	37.7
食料品	45.6	41.5	40.0	37.1	47.2	54.2	40.0	30.4	36.2	49.1	34.8	40.0	36.8	42.3	36.8	34.4	38.6	55.4	39.3	49.1	44.4	37.3